

下野市立南河内第二中学校

1 学校課題

思考力や表現力の向上を図り、自ら課題をもち、共に学び合い、深い学びに向かう生徒の育成

2 研究計画

(1) 研究のねらい

昨年度に引き続き、小中一貫教育として南河内第二中学校区の小学校と共通の研究課題を設定している。小学校では、理数教育に特化した研究だが、本校では、これまでの研究を生かし、全教科で研究が進められるよう、「思考力・表現力の育成及び主体的・対話的で深い学びの追究」を継続して行っている。そのため、①ねらいの共有化と課題設定の工夫、②思考力・表現力の育成につながる深い学びの研究、③フィードバック可能な「振り返り」の実践について、全教科で研究する必要があると考え、この研究主題を設定した。

(2) 学校課題の研究によって目指す生徒像

○主体的に考え、学び合いを通して互いに高め合える生徒

(3) 研究目的・内容

学校課題に基づいて、主に以下の3点について実践や検証をすることで、今後の学習指導の向上に資することを目的とする。

- ① 話し合い活動が必要となる課題設定の工夫
- ② 深い学びにつながる話し合い活動の実践と探究
- ③ 授業のねらいや目標に合わせた「振り返り」の実践とその後の授業改善

(4) 研究方法

- ① 話し合い活動に意味を見い出せるよう、やや難易度の高い学習課題を設定し、話し合い活動がより活発、かつ内容に深まりが出るよう工夫する。
- ② 思考力・表現力の育成に向け、各教科で指導法や話し合い活動の在り方、発問や資料提示の工夫等を研究し、いかにして深い学びにつなげるかを探究していく。
- ③ 各教科で「振り返り」を実践し、生徒自ら学びの達成感や自己の取り組み状況について把握できるようにするとともに、生徒のつまづきや疑問、新たな課題といった生徒の実態を教師が分析し、その後の授業改善に役立てられるよう努める。

(5) 研究手順

研究方法で示した内容を以下の手順で進めていった。校内公開授業では、教科の枠を取り除いて教職員が参観し合うことにした。授業の成果と課題のもと、各教科の研究実践や授業改善に生かしていった。

- ① 4月 各教科部会で研究計画の作成・研究のポイント・目指す生徒像の設定
評価計画・指導計画・課題設定についての検討
7月 3日 とちぎっ子学習状況調査実施（2年）
7月 3日 教研式標準学力検査（1年）
9月 1日 全国学力・学習状況調査実施（3年）
- ② 10月 全国学力・学習状況調査の分析
各教科部会で評価計画及び指導計画の修正及び自校化について検討
- ③ 11月 とちぎっ子学習状況調査及び教研式標準学力検査の分析
各教科で評価計画及び指導計画について検討
- ④ 11～1月 『深い学び』に関する校内公開授業の実施
- ⑤ 12～1月 教科部会で研究報告の作成

3 研究内容

(1) 話し合い活動が必要となる課題設定の工夫について

- ・表現力を育成するため、物語の展開を文章で説明したり、グループで登場人物の心情を考えながら朗読したりすることを課題に設定した。(国語)
- ・課題設定では、前時とのつながりから本時の課題を設定したり、単元毎に追究する内容を変えたりしながら、生徒が学ぶ必然性を感じられるよう工夫した。(社会)
- ・「自分なりの根拠と解法の説明を書く」という課題を設定した。(数学)
- ・「見通しをもった実験・観察」に焦点を当てて課題を設定した。(理科)
- ・「音楽の魅力を知ろう」という大きな課題を設定し、そのためにはどのような活動が良いかを考え、指導を工夫した。(音楽)
- ・新型コロナウイルスの影響で、授業時間が削られたため、時間をかけずに基礎・基本の定着が図れる課題を設定するよう工夫した。(美術)
- ・言語活動を生かして、互いに共有し、高め合える課題を設定した。(保健体育)
- ・学習した言語材料に合わせて、言語の使用目的・場面等を設定し、生徒が自ら考え自由に表現できるよう課題設定を工夫した。(英語)



(2) 深い学びにつながる話し合い活動の実践と探究について

- ・導入では、プレゼンテーションソフトやインターネット上の映像資料等を見せることで、学習内容に見通しをもたせることができるとともに、「気付き」や思考を促す補助発問を加えることにより、生徒の興味・関心を高め、話し合い活動にスムーズに移行することができた。
- ・話し合い活動では、発問に対する答えだけではなく、その根拠をわかりやすく説明する時間を設けることで、深い学びにつなげることができた。また、問題を解く際は、個人→ペア・グループ→斉と段階的に授業を行い、個々で自分の考えをしっかりとまとめてから話し合い活動に臨み、最後は全体で互いの考え・意見を共有することができるよう工夫した。
- ・技術・家庭科や保健体育科では、チーム主体の学習形態を取り入れ、その中でペアやグループを作って互いにアドバイスしながら基礎・基本を学んでいけるよう工夫した。



(3) 授業のねらいや目標に合わせた「振り返り」の実践とその後の授業改善について

- ・振り返りでは、類似問題や基本的な語句の定着を図る問題を出したり、発問に対し自分の考えや意見を書かせ、全体で共有したりした。
- ・授業で使用するワークシートに自己評価・相互評価・次回の抱負の欄を設け、活動後に記入させることで、その結果をその後の授業に役立てることができた。
- ・振り返りの際に、チーム内で互いのアドバイスを付箋に記入し、交換させることで、授業に目的意識を持って取り組む生徒が増えてきた。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ①ワークシートのチェック項目を基準に、互いに教え合いながら作業を行うことで、理解度・習得率ともに高まった。また、教え合いが増えたことで、協力して互いの技能を向上させようとする生徒が増えてきた。
- ②「振り返り」を文章で記述させたことにより、教師がより客観的に授業を分析し、生徒の定着度を把握した上で、その後の授業改善を行うことができるようになった。

(2) 研究の課題

- ①ペアやグループ活動を通して、スムーズに教え合うことができるようになったが、活動の中心となる生徒がほぼ固定されているのが現状である。今後は、役割を与えるなどして、生徒がより主体的に学習できるよう手立てを講じていきたい。
- ②振り返りの際に、多くの生徒が反省や改善点について記載する傾向がある。今後は、自分や友人のうまくいった点や参考になった点についても記載し、互いに共有したり、賞賛し合ったりする機会を設けることも検討していきたい。